

海外には負けない製品づくりをめざして

世界最高の技術 メイトイン大田の挑戦

ヤシマ

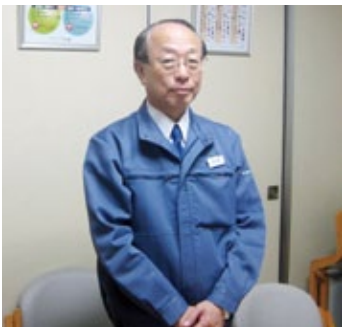


オートメーションシステム

ヤシマ（大田区西六郷、箕浦裕社長、03・3732・7726）は、昭和9年の創業以来、自動車用バッテリーキャップの製造を主業とし、バッテリーパック用ケース、バッテリー用安全弁などを手掛けている。

会社では、「不良品がゼロで完全な製品を中国や東南アジアよりも安く生産してほしい」とのメーカーの希望を受ける形で何度も試行錯誤を繰り返しながら、自動生産ラインの改良を行い、今では射出成形から組立加工、検査、梱包に至るまで24時間完全無人化を達成し、海外に負けない技術力と低コストを実現。主力製品であるバッテリーキャップに至っては、十数年前は数%だった国内シェアが6割を超えた。

また、会社は、「地球環境にやさしい企業活動」をモットー



箕浦社長

に、自動車電池業界の基幹部品の生産に携わっていることを認識し、不良品の発生は、命に関わる事故につながるという意識を持って製品づくりを行っており、その信頼の証として、平成18年「大田ブランド」に登録、平成22年には「大田区優工場」に認定され、その技術力は各方面から高い評価を得ている。

会社は、生産ラインの無人化が特長ではあるが、社員教育にも力を入れている。製造現場の自動化によって、作業は材料の注入や機械、工程の管理、製品検査などが中心になるため、女性の社員も多く、「全くの未経験者でも、ものづくりに興味があれば大歓迎！」と手厚い教育システムでバックアップしながら育てているのだ。

顧客からのコストへの要求が依然として厳しい競争下でも、世界最高水準の技術力と、中国や東南アジアには負けない低コストで大量に安定供給できる同社の製品は、いわば大田区を代表する製品となっている。

今後、会社は、タイ最大のアマタナコン工業団地内にある「オオタテクノパーク」に進出する予定であり、「バッテリー関連の仕事を中心に、医療や食品関係の製品も手掛けていきたい」と箕浦社長は語る。